

【市長あいさつ（要旨）】

新型コロナウイルス感染症が拡大をしている中であるが、市民の安全を守るため、市としても感染症対策について全力を挙げている。

春日井保健所について、管内の小牧市、春日井市内だけでも1,500人から1,800人ほどに対して連絡が滞り、5～6日遅れるなど業務が逼迫していると聞き、県・市の垣根を越えてしっかり対応すべきと考え、急遽、市職員を応援として10人以上派遣した。

ワクチンの3回目接種についても、接種時期を前倒ししながら、できる限り早く皆さんがワクチン接種を受けられるよう努力している。ただし、国から供給されるワクチンは、ファイザー社製に対してモデルナ社製の比率が非常に大きく、前倒し分についてはモデルナ社製で対応するというのが国の考え方であると理解している。1回目、2回目の初回接種でファイザー社製ワクチンを打った方のうち、2人に1人ほどはモデルナ社製に切り替えていただかないと3回目接種が進んでいかない状況である。これについても丁寧に説明しながら理解をいただき、接種を進めていきたい。

本日のテーマは、来年度の当初予算である。

本市は、最上位計画である小牧市まちづくり推進計画第1次基本計画により、市民憲章に掲げた理想のまちづくりを実現するための体系を整えているところである。計画に基づいて、3年間のローリングプランとして実施計画を毎年策定しており、今回は令和4年度から令和6年度まで3か年の実施計画を取りまとめた。これは、まちづくり推進計画に示された施策等の実現手段である主な事務事業について、財源の裏づけをもって3年間でどのように進めていくのかということ、主に新規、あるいは拡充事業について位置づけているものである。その3年間ローリングプランに基づいて、令和4年度の当初予算を編成した。

歳入の根幹をなす市税については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、企業収益が回復傾向にあることから、法人市民税については増収と見込んだ。昨年度との当初予算比較で3年ぶりのプラスとなり、コロナ禍前の令和2年度の当初水準まで回復した。

歳出においては、少子高齢化の進展に伴う社会保障関連経費が非常に増えていること、また公共施設の建て替えや改修に要する費用など年々増加傾向にあることに加え、GIGAスクール構想など相次ぐ国の施策が、普通交付税の不交付団体である本市の財政を圧迫している。こうした中で、

令和4年度の当初予算の編成にあたっては、効果的・効率的で持続性の高い自治体経営を着実に推進しながら、新型コロナウイルス感染症への対応にも十分意を配するとともに、「充実した子育て環境」と「活力ある幸せな高齢社会」いわゆる「小牧モデル」の実現を目指す「全世代活躍・SDGs推進予算」として編成したところである。

その結果、令和4年度の当初予算は、一般会計では前年対比1.0%減の584億7,500万円となった。また、特別会計と企業会計を合わせた全会計では、対前年度比0.5%増の1,246億5,486万円余となった。

新年度、また市民の皆さんが安心して暮らせる、そして市として将来に向け持続可能でさらに魅力と活力にあふれる夢ある小牧市の創造に向けてしっかりと進めていきたい。

【説明要旨】

《令和4～6年度実施計画について》

この実施計画は、小牧市まちづくり推進計画に示された施策等の実現手段である主な事務事業を位置づけたもので、予算との連動性を高めるため、当初予算の概要とあわせて冊子として取りまとめている。

■第I部 実施計画・当初予算の概要

●第1章 計画の目的と性格

本計画は、まちづくり推進計画基本計画に定めた基本施策の展開方向に従い、財源の裏づけのもとで令和4年度からの3か年に実施する主要事業の内容を明らかにし、予算編成の指針とするものである。

●第2章 対象事業

令和4年度から3か年実施が見込まれる事業のうち、まちづくり推進計画に掲げられた3つの都市ヴィジョン実現に向けて重点的に取り組む新規事業、拡充事業などを対象としている。

●第3章 基本方針

所要一般財源の精査、SDGsの推進及びダイバーシティの形成、デジタルイノベーションの推進、都市ブランディングの推進を基本として計画を策定した。

●第5章 市政の動向

2. 計画期間中の財政の見通しでは、計画の前提となる今後3か年の歳入歳出を推計し、主要事業の実施に要する財源を見込んでいる。

計画期間中の一般財源であるが、表の上段、一般財源総額Aが歳入、表の下段、義務的経費等主要一般財源Bが歳出となっている。

歳入について、計画期間中の一般財源の総額を1,291億6,800万円と見込んだ。これは、市税の953億1,100万円をはじめ、地方消費税交付金の117億6,000万円などを見込んだものである。市税は、昨年度の見込み額896億2,900万円と比べると約6.3%、56億円余の増収となる。

次に、歳出について、3か年の義務的経費所要一般財源を942億2,500万円と見込んだ。これは、人件費、扶助費、公債費、物件費等を近年の動向及び過去の推移等を参考に積み上げて見込んだものである。

歳入の総額から歳出の義務的経費等の総額を差し引いた349億4,300万円が、計画期間中に実施計画事業に充当する一般財源となっている。

●第7章 都市ビジョン

小牧市民憲章に掲げる理想のまちを実現するため、3つの都市ビジョン、「こども夢・チャレンジNo.1都市」「健康・支え合い循環都市」「魅力・活力創造都市」を基軸として掲げ、「活力ある高齢社会（小牧モデル）」の創造と「若年世代の定住促進」を図る。

●第8章 実施計画事業一覧

掲載されている事業は、計画期間中に予定している主要事業である。まちづくり推進計画の分野別計画編と自治体経営編に分けて117事業を掲載している。事業の合計は450億6,136万円余である。

▼I 分野別計画編

・第1章 安全・環境

この分野の事業費は22の事業で6億5,910万円余となっている。

・第2章 健康・福祉

この分野の事業費は23の事業で206億9,971万円余となっている。

・第3章 教育・子育て

この分野の事業費は7の事業で58億726万円余となっている。

・第4章 文化・スポーツ

この分野の事業費は32億8,287万円余となっている。

・第5章 産業・交流

この分野の事業費は10の事業で13億7,162万円余となっている。

・第6章 都市基盤・交通

この分野の事業費は21の事業で125億3,028万円余となっている。

▼Ⅱ 自治体経営編

自治体経営編の事業費は22の事業で7億1,050万円余となっている。

●第9章 ブランド戦略の推進

本市では、子育てしやすいまちと史跡小牧山をブランドの柱と定め、市の魅力や他市と差別化できる強みを発信していく都市ブランド戦略に取り組んでいる。引き続きInnerブランディングとして市民向けのブランド発信を継続しつつ、Outerブランディングとして市外の方に対しての情報発信や話題づくりを並行して実施することを通して、小牧市への愛着・誇りのさらなる醸成を進める。

●第10章 SDGs実施計画

本市では、まちづくり推進計画第1次基本計画の推進を通じて、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指している。

昨年5月に本市のこれまでの取組みと目標達成に向けた提案が評価され、内閣府において、名古屋市を除く尾張地区で初のSDGs未来都市に選定された。

今後はSDGs未来都市として、未来につながる取組みを加速していく必要があることから、実施計画事業をSDGsの17のゴールごとに区分し、小牧市版SDGs実施計画として取りまとめた。今後、SDGsのゴール達成に貢献できるよう事業を展開していく。

●第11章 令和4年度当初予算の概要

全会計の合計では、1,246億5,486万円余で対前年度比0.5%の増となった。

▼一般会計

一般会計当初予算額は、対前年度比1.0%、5億8,800万円減の584億7,500万円となった。

▼特別会計

特別会計では、8会計の総額が268億3,477万円余で、対前年度比2.2%の増となっている。

土地取得で市有土地の売払いがなくなったことなどにより2億163万円余の減額、国民健康保険事業で一般被保険者医療給付事業が減額となったことなどにより1億3,907万円余の減額となったが、介護保険事業で居宅介護サービス給付事業が増額したことなどにより6億5,939万円余の増額、後期高齢者医療で後期高齢者医療広域連合納付金が増額したことなどにより1億9,114万円余の増額となった。

▼企業会計

病院・水道・下水道の3会計の総額が393億4,508万円余で、対前年度比1.8%の増となっている。これは主に水道事業の資本的支出で、建設改良費が増額となったことなどによるものである。

・令和4年度一般会計当初予算の概要

歳入の根幹をなす市税は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、企業収益は回復傾向にあることから、法人市民税を増収と見込んだことなどにより、対前年度比8.5%増の320億3,402万円となった。

また、投資的経費は対前年度比25.7%減の54億5,103万円となっているが、これは小牧南小学校改築事業で24億1,965万円余の減となったことなどによるものである。

人件費は対前年度比1.3%の増となっている。

・令和4年度一般会計当初予算款別表 歳出

増額の大きい科目については、3款民生費が対前年度比5.5%、12億4,133万円余の増となっているが、これは障害者自立支援等給付事業で4億3,022万円余の増、(仮称)第3老人福祉センター施設建設事業で3億6,168万円余の増となったことなどによるものである。また、4款衛生費が対前年度比2.3%、1億4,560万円余の増となっているが、これは予防接種事業で1億3,927万円余の増となったことなどによるものである。また、2款総務費が対前年度比2.1%、1億2,934万円余の増となっているが、これは執行を予定している選挙の回数が前年度の1回から3回に増えたため、選挙費が1億4,963万円余の増となったことなどによるものである。

次に、減額の大きい科目については、10款教育費が対前年度比14.7%、

15億9,631万円余の減となっている。これは史跡小牧山整備事業で1億7,672万円余の増、歴史館施設関連事業で1億1,175万円余の増となったものの、小牧南小学校改築事業で24億1,965万円余の減となったことなどによるものである。また、9款消防費が対前年度比14.1%、2億7,925万円余の減となっているが、これは消防指令センター共同運用事業で3億7,074万円余の減となったことなどによるものである。また、7款商工費が対前年度比9.7%、1億9,593万円余の減となっているが、これは企業立地推進事業で2億6,613万円余の減となったことなどによるものである。

構成比については、民生費が41.0%、教育費が15.8%、土木費が11.9%となり、民生費が平成16年度以降19年連続で最大となっている。

・一般会計当初予算性質別分類表 歳出

義務的経費については、対前年度比2.8%の増となっている。人件費、扶助費がそれぞれ増額となったが、扶助費については障害者自立支援等給付事業の居宅介護給付費で1億8,050万円の増、児童発達支援等給付費で6,480万円の増となったことなどによるものである。

投資的経費については、対前年度比25.7%の減となっている。

その他の経費のうち物件費は対前年度比1.3%の増となっているが、これは個別予防接種委託料で1億4,662万円余の増、歴史館展示改装委託料で1億円の皆増となったことなどによるものである。

繰出金は対前年度比5.6%の増となっているが、これは後期高齢者医療特別会計繰出金で1億462万円余、介護保険事業特別会計繰出金で7,697万円余の増となったことなどによるものである。

■令和4年度の主要事業の概要

(第Ⅱ部 市政戦略編)

・子育て世代包括支援センター運営事業

妊娠期から子育て期にわたり切れ目のない子育て支援を行う子育て世代包括支援センターでは、妊産婦を対象に、こまき巡回バス「こまくる」を無料で乗車できるフリーパスを配付し、妊産婦の安全な外出をサポートする。また、妊娠・出産包括支援事業を充実し、産後鬱対策として自宅等に訪問する育児サポートを実施する。

・放課後子ども総合プラン運営事業

児童クラブと放課後子ども教室を一体的に、または連携して行う放課後

子ども総合プランの導入地区を拡大し、6小学校において事業を実施する。

・こまきこども未来館運営事業

SDGs 未来都市申請時に持続可能なまちづくりに向けた先導的な取組として提案したこどもの夢への挑戦をまち全体で応援する「こまきこども未来大学」や、ものづくりに携わる人材を育成する「少年少女発明クラブ」を実施する。

・健康・支え合い推進事業

健康、地域福祉及び地域ポイントの循環に関する有識者等で構成する（仮称）健康・支え合い循環戦略会議を開催し、健康生きがいつくりと支え合いの地域づくりを推進するための在り方などについての議論を進める。

・高齢者外出支援事業

介護が必要な高齢者の日常生活における外出支援及びその家族の負担軽減のため、リフトつきタクシー等の利用料金の一部助成を拡充するとともに、新たに要介護1以上の方を対象に、一般タクシーの初乗り料金分を助成する。

・家族介護用品支給事業

介護者の経済的な負担の軽減を図るため、在宅で要介護者を常時介護している家族等への介護用品の支給について、対象者を拡充して実施する。

・口腔がん検診事業

口腔がんの早期発見、早期治療につなげることができるよう小牧市歯科医師会と連携し、集団による口腔がん検診を実施する。

・地域協議会設立推進・活動支援事業

現在、全16小学校区のうち、13小学校区において活動に取り組んでいたが、引き続き、既に設立されている地域協議会の活動支援を行っていくとともに、設立に至っていない地域に対しては設立の推進を図る。

・中心市街地活性化事業

将来にわたって魅力と活力の続く中心市街地としていくため、（仮称）中心市街地まちづくり協議会を設置するとともに、中心市街地における今後の取組をまとめた中心市街地グランドデザインアクションプランを作成する。

・東部まちづくり推進事業

東部振興構想の実現に向けて、地域を取り巻く様々な主体をつなげる場となるプラットフォームを構築するとともに、トライアル活動に対する支援

を行う。

・次世代産業インターンシップ受入助成事業

次世代産業の推進を図るため、次世代産業関連企業が学生をインターンシップとして受け入れた場合、当該受入れに応じた費用の一部を助成する。

・こまきプレミアム商品券発行助成事業

市民生活の支援と地域経済の活性化のために、小牧商工会議所が実施するこまきプレミアム商品券発行事業については、新型コロナウイルスの影響からの回復を支援するため、プレミアム率を20%として発行総額14億4,000万円分に対する補助を実施する。

(第Ⅲ部 分野別計画編)

●第1章 安全・環境

・新エネルギー導入助成事業

省エネルギー型機器・再生可能エネルギーの普及拡大のため、新たに電気自動車等充給電設備に対する補助を実施するとともに、一体的導入補助金にこれまでの蓄電池などの設備に加え、電気自動車等充給電設備、高性能外皮等を対象とする。

・建築物等及び空き地適正管理事業

市内の建築物等及び空き地について、不特定多数の人の生命または身体に重大な損害を及ぼす危険な状態が切迫していて、所有者等が回避措置を行えない場合、市が必要最小限の措置を行えることとしたので、事案に応じて対応できるよう庁内各課で連携する。

・野良猫の去勢避妊手術費補助事業

地域で発生する野良猫に起因する問題の減少を図るため、野良猫の去勢避妊手術費に対する補助額を増額する。また、この補助を実施するにあたり、こまき応援寄附金に新たに不幸な猫を増やさないまちづくりコースを設定し、事業実施の財源とする。

●第2章 健康・福祉

・ピロリ菌検査事業

中学2年生の生徒全員に、胃がんにつながるリスクのあるピロリ菌を早期に発見するための検査を無料で実施する。

・子宮頸がんワクチン接種事業

小学6年生から高校1年生相当年齢の女性に加え、積極的な接種勧奨が

中止されていた期間の接種対象者で、今までに接種をしていない女性も無料で接種できるようにする。

- ・ **(仮称)第3 老人福祉センター施設建設事業**

令和5年度の供用開始に向け、建設工事及び駐車場整備工事等を行う。

- ・ **子ども医療費助成事業**

医療費に係る保護者の経済的負担を軽減するため、高校生等の入院分に加え、通院分も対象とする。

- **第3章 教育・子育て**

- ・ **小牧南小学校改築事業**

令和4年4月から新校舎・体育館を供用開始するが、令和4年度は旧校舎・体育館の解体、外構整備を行う。

- **第4章 文化・スポーツ**

- ・ **さかき運動場多目的グラウンド整備事業**

多様なニーズに対応するため、さかきテニスコート駐車場横に整備するフットサル、テニス兼用コートの実施設計を行う。

- ・ **史跡小牧山整備事業**

主郭地区における山頂の歴史館西側の石垣等復元工事に加え、旧市役所本庁舎東側の旧管理道部分で土塁復元などの史跡整備工事を行う。また、小牧市歴史館の展示内容を、戦国時代を中心とした展示に全館リニューアルするとともに、れきしるこまきの展示に小牧・長久手の戦いに関する内容等を加え、充実させる。

- **第5章 産業・交流**

- ・ **生産緑地内市民農園開設支援事業**

市街化区域内の農地を保全し、市民農園の推進を図るため、生産緑地に民間型市民農園を開設する整備費用の一部を補助する。

- **第6章 都市基盤・交通**

- ・ **定住促進事業**

若年層の定住を促進するための補助金制度について、子育てに対する不安や負担の軽減を図る三世帯同居・近居住宅支援タイプに加え、市内就業者定住促進タイプ、中古住宅活用タイプを追加して実施する。

- (第IV部 自治体経営編)**

- ・ **集会施設整備事業**

自治会活動の促進を目指し、新たに集会施設の照明設備LED化及び老朽化した長机、椅子の備品購入に要する費用を補助する。

・ **区長事務デジタル化推進事業**

希望する区長に専用アプリを通じた連絡や資料の共有などを行い、区長事務の軽減を目指します。あわせて、新しい生活様式を踏まえた効率的な区の運営体制の構築を目指し、一部の区で電子回覧板などの機能の検証を行う。

・ **市民活動総合補償事業**

市民が行う市民活動やボランティア活動中の事故に備え、市が保険料を負担し、補償を行う制度を導入する。

・ **キャッシュレス決済推進事業**

市民の利便性向上や非接触決済による新型コロナウイルス感染症の感染リスク軽減を図るため、各種証明書交付手数料、公共施設の入場料及び市税等の支払いにおけるキャッシュレス決済を導入する。

・ **スマート窓口導入事業**

転入・転出等の住民異動や証明書発行等の手続において、職員が撮影した申請書等を確認・署名するのみで手続を済ませることができる「こまきスマート窓口」を導入する。今月1日から本庁舎窓口でスタートし、順次、対象となる手続や受付窓口を拡大する予定である。

・ **SDGs 未来都市推進事業**

企業や市民活動団体等との連携を強化し、市全体でSDGsを推進していく機運を高めるため、小牧市独自の登録制度を構築する。

● **水道事業**

令和5年3月の供用開始を目指して、横内浄水場更新工事を行う。

● **新規・拡充等の主な事業**

・ **小学校特別教室空調機設置事業**

小・中学校へのエアコン設置については、快適な学習環境を整えるため、平成29年度までに普通教室に設置したが、音楽室や理科室、図工室などの特別教室について、小学校8校の空調機設置工事を行う。

・ **小・中学校トイレ洋式化事業**

生活様式の変化の中で、家庭、民間施設、公共施設などでの洋式トイレ

の設置率が高まっていることから、学校施設のトイレの洋式化率を高めていく。洋式化率100%を目指し、小学校2校のトイレ改修工事を行う。

・**保育園等職場環境向上事業**

保育現場の業務負担が大きくなっている現状に対応し、あわせて働く保育士のモチベーションアップを図るため、保育業務に対する業務手当「頑張る保育士応援手当」を新設する。また、私立保育園等についても、国の処遇改善臨時特例事業に基づき補助を行う。また、当初予算では、保育現場における業務の負担軽減とICTの活用を推進するため、公立保育園、第一幼稚園にWi-Fi環境を整備するとともに、各園にタブレット端末などのICT機器を配置する。